

図書館施設及び複合施設内の図書館施設周辺の空間について

1 市立図書館 利用者と管理者がともに使いやすい施設計画とします

本に囲まれた空間で利用者を迎え入れ、エスカレーターで2階にアクセスしやすい計画とします。



①～③ 利用者が使いやすい動線計画

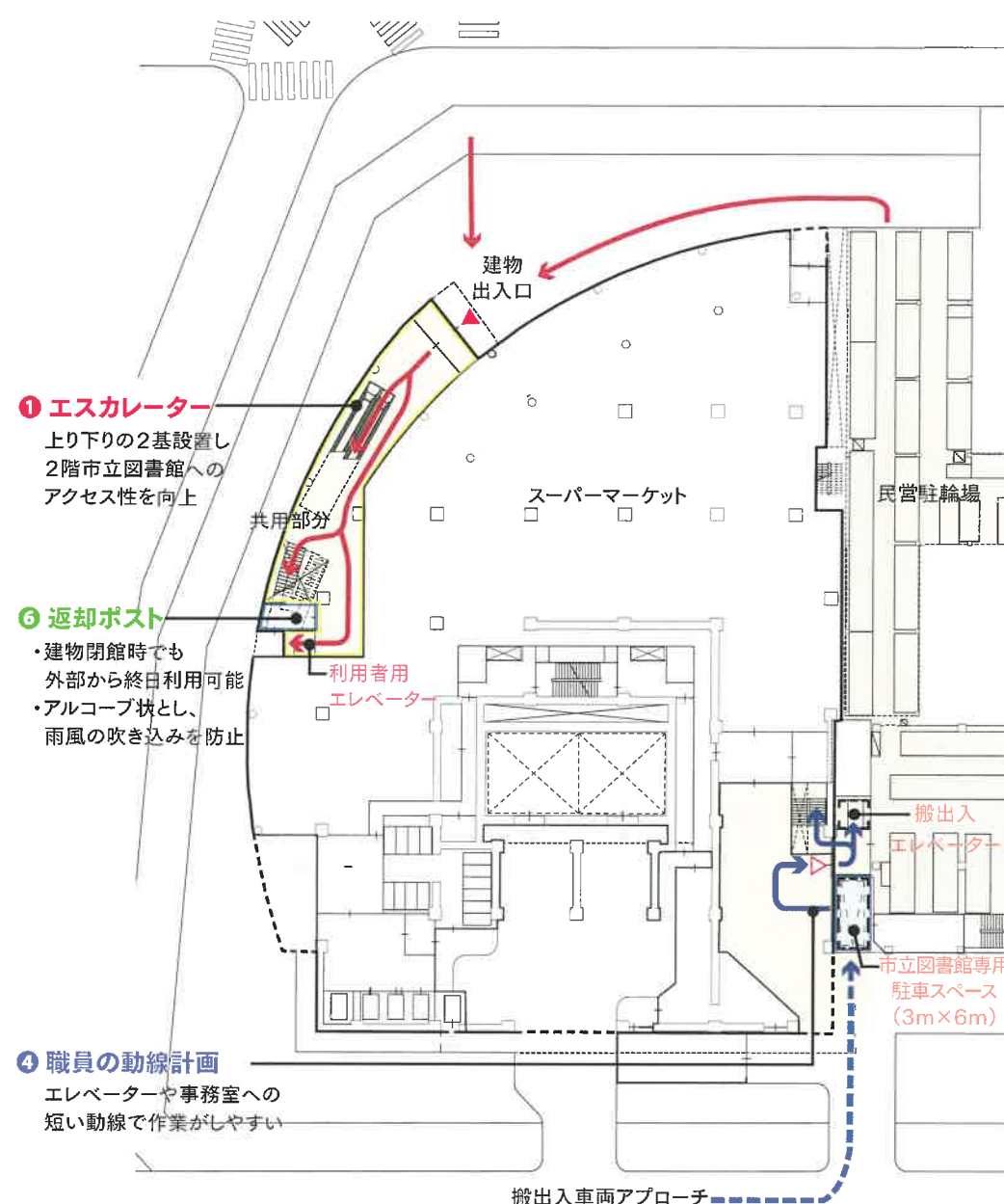
利用者動線は、上り下りのエスカレーターを設け、2階の市立図書館にアクセスしやすい計画とします。図書館内は、サービスカウンターに向かう動線と、書架や多目的スペースに向かう動線を設け、各エリアにアプローチしやすい計画とします。

④～⑤ 利用者と明快に分けた職員動線

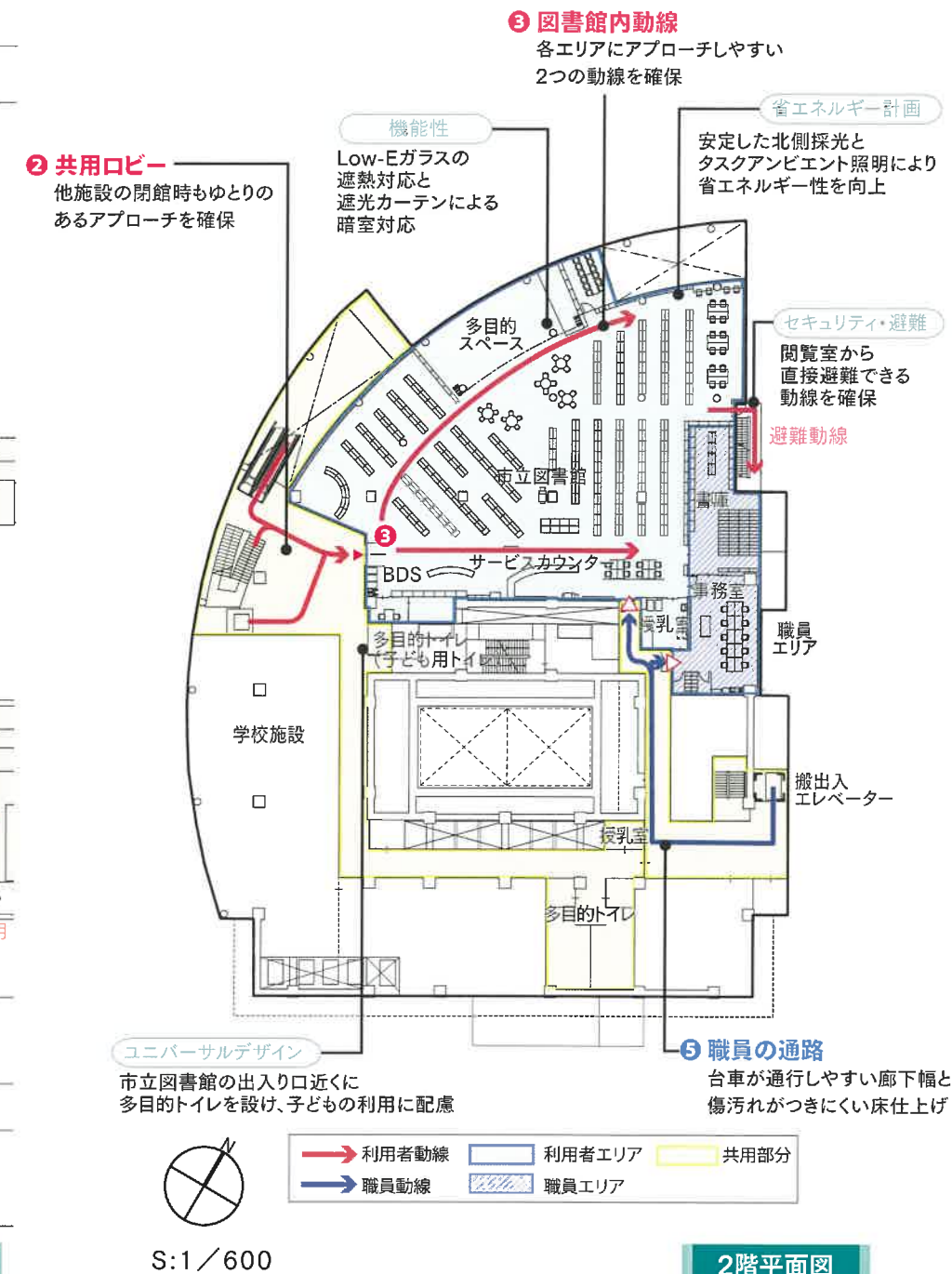
職員動線や搬出入動線は、エレベーターと事務室・駐車場との動線を短くすることで、使いやすい計画とします。

⑥ 閉館時の資料返却への対応

図書館の返却ポストは、建物閉館時にも外部から利用できる位置に設け、アルコーブ状にすることで雨風の吹込みを防止します。



1階平面図



2階平面図

市立図書館の計画上の配慮事項

機能性

- ・図書館内の閲覧スペースは、重歩行用タイルカーペットとし、防音性・防汚性に配慮します。
- ・飲食可能なエリアの床は、ビニル床タイルとし、汚れをふき取りやすい仕上げとします。
- ・職員が利用する事務室・書庫・サービスカウンターは集約し、作業しやすい諸室配置とします。

ユニバーサルデザイン

- ・館内サインや書架サインは、色や番号で誰もが直感的に理解できる計画とします。
- ・図書館の出入口近くには、子ども連れの方が使いやすい設備を備えた多目的トイレを設けます。
- ・共用部分には、2ヶ所の多目的トイレと授乳室を設け、施設全体の利用者が使いやすい計画とします。

省エネルギー計画・維持管理計画

- ・安定した北側採光の導入と、タスク・アンビエント照明により、省エネ化を図るとともに、読書に適した環境をつくります。
- ・温湿度計測器にて管理を行い、湿度による図書のカビ防止と、空調費の削減を図ります。

セキュリティ・避難

- ・利用者の出入口を1ヶ所にし、カウンターを近くに配置することで、管理がしやすい計画とします。
- ・閲覧室から直接避難できる動線を確保し、利用者の安全を確保します。

図書館施設及び複合施設内の図書館施設周辺の空間について

2 みんなで育てる ライブラリー

人々が集うコミュニティ活動の場“みんなで育てるライブラリー”を開設し、市立図書館と有機的につながるワイガヤ空間を実現します

“みんなで育てるライブラリー”は学校法人が提供(一般開放)し、誰もが無料で気軽に利用できる場とします。

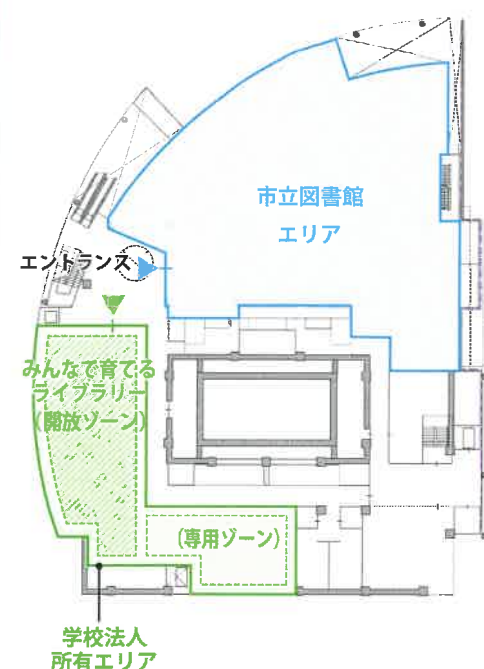
“みんなで育てるライブラリー”では、経験豊かな専門スタッフを置き、人と人がつながるきっかけづくりをサポートします。

地域に根差した学校法人がライブラリーの運営に携わることで、ワイガヤ空間を将来にわたり持続していきます。

学校法人の所有区画のうち約300㎡を一般開放

学校法人が約500㎡を所有し、そのうち、約300㎡を地域に開放したエリアとして提供します。

市立図書館と入口を対面させ、一体感のある空間として整備することで、相互利用を促進します。



2階 全体イメージ図

図書館施設及び複合施設内の図書館施設周辺の空間について

2 みんなで育てる ライブラリー

“みんなで育てるライブラリー”は、読書・カフェ・おしゃべり・学び・ミーティングなど
地域の人々がさまざまな目的で利用できる自在な空間です



2階 みんなで育てるライブラリー イメージ図

全体を活用したイメージ

開放ゾーン全体を使って、地域のイベントや講演会などが開催可能です。



地域のマルシェ・バザーなど



スポーツ選手など外部講師を招いた講演会 市民による文化活動イベント

ミーティングスペースでの活動イメージ

講師を招いたセミナーや市民サークル活動が行えます。



学校法人主催のセミナー



身体を動かすストレッチ教室

交流サロンでの活動イメージ

本棚に囲まれ、1人で落ち着いて過ごしたり仲間との会話・学習が楽しめます。



お茶や本を楽しみながらおしゃべり



本を使ってみんなで学び合い



学生サークル活動

ワークスペースでの活動イメージ

自在な学習・仕事・趣味等の様々な活動が行えます。



食育イベント

図書館施設及び複合施設内の図書館施設周辺の空間について

2 みんなで育てる ライブラリー

“みんなで育てるライブラリー”とは

まちに住む人、まちを利用する人達が、自分たちが持ち寄った本にメッセージを添えて本棚を埋めていき、本を通じて人と出会うことを目的としたコミュニケーション活動です。

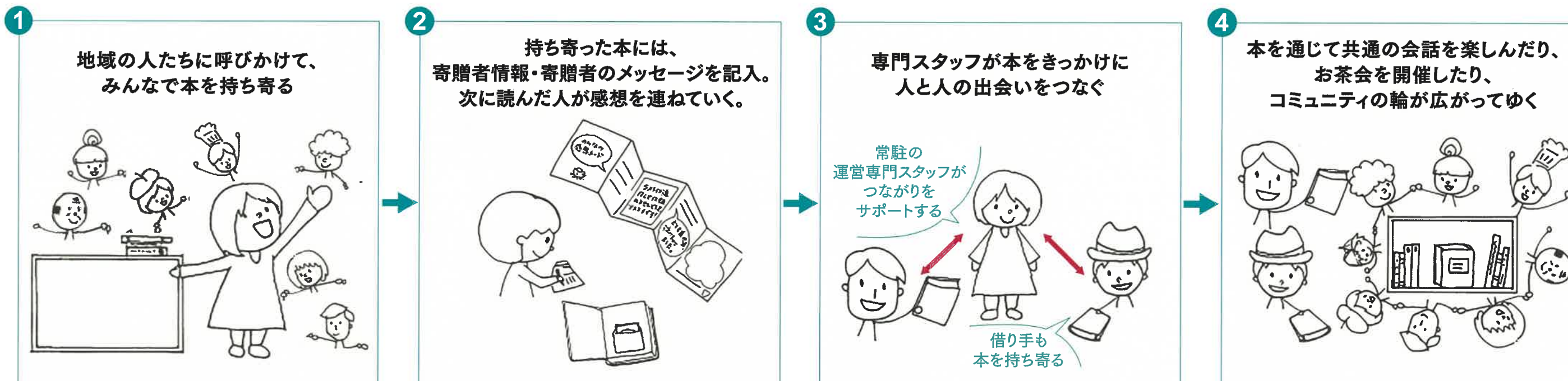
“みんなで育てるライブラリー”の仕組み

地域の人々を中心に寄贈された本は貸出が可能で、寄贈者の思いをメッセージカードに記入して本に添えます。

その本を借りた人は“みんなの感想カード”に感想を書くことができます。

今回開設する“みんなで育てるライブラリー”では、寄贈された本の貸出しのために経験豊富な専門のスタッフを配置します。

「本や作家について語り合う場があれば参加してみたい」、「自分と同じ趣味を共有できる機会がほしい」など、潜在的につながりを求める人のために、専門スタッフが利用者に寄り添い、思いを聞き出すことで、人と人をつなぐきっかけをつくります。



図書館は学校の知の最前線であり、人材育成の場です。

学校法人は、“みんなで育てるライブラリー”を

十三エリアにおける産学連携の新たな拠点と考え、学生や職員とともに、世代や職業を越えた「学び合いの場」を提供していきます。

“みんなで育てるライブラリー”の取り組みは大阪で始まり、

全国各地のまちの中にあるカフェやギャラリー、オフィスや住宅、会館やお寺、病院など約700か所の様々な場所で展開され、地域コミュニティが育まれています。



図書館施設及び複合施設内の図書館施設周辺の空間について

2 みんなで育てる
ライブラリー

“みんなで育てるライブラリー”を通じて、自分の居場所が見つかる、出会いの場ができる、つながりが生まれる

case1

学生の場合



■ 自習を目的にライブラリーに来た(医療・スポーツをもっと勉強したい)

専門書を手に
とってみた寄贈者からの
メッセージを読んで、
自分と同じ
志の人だと分かったスタッフに紹介して
もらい寄贈者と出会う寄贈者が主催する
研究会に参加して仲間ができた

case2

子育てママ・
専業主婦の場合

■ 保育所の帰りにライブラリーに寄ってみた(仕事と子育ての悩みを共有できる知り合いがほしい)

同じくライブラリーに来ていた親子と、
子供を通じて会話ができたママ友の輪が広がりライブラリーで
お茶会を開催するなど悩みを共有する場ができた

■ 趣味のポーセラーツ(手芸)に関する本を寄贈した(講師の資格を持っている)

本を読んだ人で
習いたい人がいると
スタッフより聞いたライブラリーで話をしたら、
他にも習いたい人が
いることを知ったワークスペースで
ポーセラーツ教室を開催
趣味が仕事になり、
やりがいが見つかった

case3

社会人の場合



■ 夕方以降に少し仕事するコワーキングスペースとして利用していた

自分の仕事(IT関連)に
関する本を手にとってみた本の内容と寄贈者の
メッセージに感銘を受け、
話を聞きたいと思ったスタッフを通じて、
交流が始まる仲間と仕事に関する
情報交換会を定期的
開催することになった

case4

シニアの場合



■ 市立図書館の帰りに隣のライブラリーにふらっと寄ってみた

にぎやかだったので、
何かイベントをしているのかと
スタッフに尋ねた日本酒好きな人が集って、
会話を愉しんでいることを
知ったスタッフを通じて
仲間に入れてもらい、
交流がはじまった仲間とイベントを企画した
(チョイ飲み講座や
穴場スポットの紹介など)

人と人との学び合いの輪が広がる

一冊の本を通じて、人と共通点を見出すことができ、そこから出会いが生まれ、会話につながり、交流へと発展していきます。
この取り組みを通じて、十三地区のいろいろな場所に小さなライブラリーをつくり、学び合いの輪を広げていきます。

図書館施設及び複合施設内の図書館施設周辺の空間について

3 スーパーマーケット にぎわい広場

にぎわい広場やスーパーマーケットによって多様な人々を呼び込み、市立図書館への人の流れを促進します

にぎわい広場（公開空地）

憩いや散歩がしたくなる、緑豊かで気持ちの良い屋外環境を創出します。



スーパーマーケット（1階）

店舗で買物をした後に、イートインで食事・団らんでできる場所を設けます。



にぎわい広場（公開空地）

潤いのある緑の中で、多世代の交流を育みます。（防災・炊き出しイベントイメージ）



青空のもとで地域のマルシェなどのイベントを開催（イメージ）

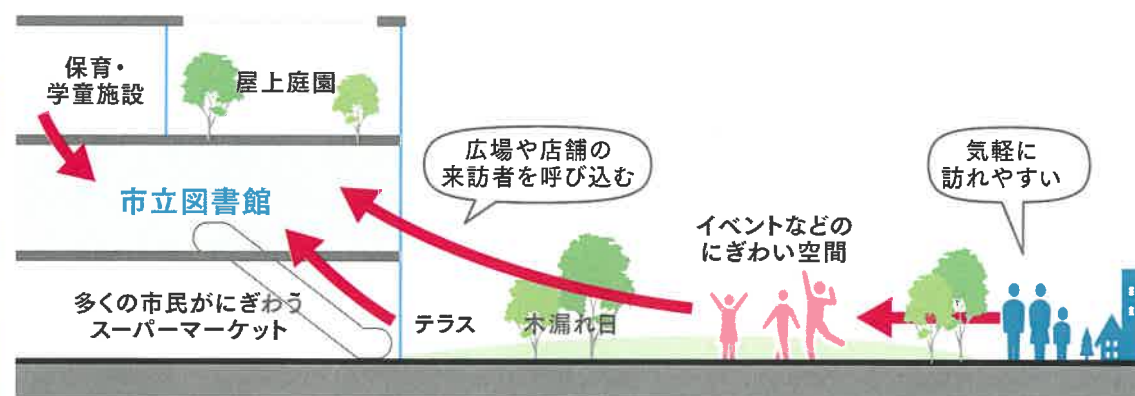


施設内・外で訪れたい仕掛けをつくり、市立図書館に人々を呼び込みます。

屋上庭園(3階)



保育・学童施設(3階)



集合住宅やスーパーマーケットがあることで、夜もにぎわう場をつくれます。

暮らしの明かりが街を照らし、夜もにぎわう拠点をづくります。



公開空地を利用したマルシェ（イメージ）



※公開空地におけるイベント開催は行政協議を経て、実施します。